

京都・伏見で酒蔵ツーリズムのしくみをつくる

1 目的・概要

本プロジェクトでは、関西圏の20歳以上の大学生に対して、日本酒に対する愛着を深めてもらうとともに、酒蔵の町伏見の魅力を発信することを目的に大学生向けのツアーを企画する事を最終目標として活動しました。

この背景には「若者の日本酒離れ」と「大学生の伏見認知度の低さ」が根本的な原因としてありました。本学3年生3名に対し独自に行った伏見・日本酒意識調査インタビューでは、伏見の中で酒蔵地域は注目されていないこと、また日本酒に対して『アルコール度数が高い』『辛い』という固定概念があることが分かりました。そこで、大学生のうちに日本酒に興味をもつキッカケをつくり、愛着を持ってもらうことが大切であるという結論に至りました。以上をねらいとして定めて本企画はスタートしました。

また人々に親しまれるツアーに必要な要素として「四方よし」の考え方を取り入れました。具体的には

参加者：伏見ならびに日本酒の知識をつけてもらい今後、伏見での日本酒ライフを楽しんでもらう

提供者：参加者に日本酒を通して伏見に親しみをもってもらう

生産者：日本酒業界に新たな客層を取り込む

地域の方：伏見酒蔵区に大学生を含む若者の賑わいをもたらす

ターゲットとなる20歳以上の大学生だけでなく、多方向に恩恵をもたらすツアーを目指しました。



Annual Schedule

2019年	5月	北川本家にて酒蔵見学
	6月	アルコールリテラシー講習
	7,8月	伏見及び日本酒の知識洗い出し
	9,10月	ツアーコンセプト及び実施プランの立案及びニーズの分析
	11月	アポ取り及びツアー宣伝開始
	12月	ツアー実施
2020年	1月	秋学期成果報告会



2 成果達成度

春学期

春学期は主にインプットに時間を費やしました。実際に日本酒を作る方々（＝杜氏）に取材を行い、日本酒の魅力や文化的背景、歴史などのお話を伺いました。また酒造会社の経営責任者（＝蔵元）にもお話を聞く機会を設け、日本酒業界の現状や将来的な可能性について知ることが出来ました。それらを踏まえて自分たちの目で実際に伏見の町を歩くことで伏見や日本酒の知識がより身につきました。



秋学期

秋学期は春学期に得た伏見や日本酒の魅力を伝えるために、実際にツアーを行うことを目標に行動してきました。大学生をターゲットにしたツアーを行うことが決まった後は、自分たちの仮説が正しいのか、本当に伏見に興味があるのかなどを検証、ツアーが完成しました。集客は SNS やポスター、チラシを活用し、集客目標を達成することが出来ました。ツアー参加者には日本酒が好きな方から、未成年で全く飲めない方まで幅広い層に参加していただきました。ツアー参加者に行った事後アンケートでは、日本酒の嗜好にかかわらず満足度が高く、伏見や日本酒に興味を深めてもらうことができました。



今回のツアー作りを通して「知識」以上の体験を提供することの重要性を感じました。皆で時間をかけて試行錯誤した分、ツアー参加者には街の魅力を十分伝えることが出来たと思います。そういった工夫がツアーの満足度を高める要因になったと思います。今回のツアーがきっかけで、また伏見に遊びに行きたいという声をいただくこともありました。自分たちのツアーが微力ながらも伏見の発展に貢献できたことを喜ばしく思います。

3 プロジェクトを通じて

このプロジェクトを通して伏見の文化や歴史を学び、そして他者に伝える経験をする事で文化を伝えていくこと重要性を身をもって体感することが出来ました。

また、ツアーの発案から実行までのすべての工程も経験しました。今回はお酒があまり得意ではないという人もターゲットにしました。そういった方たちにもツアーを楽しんでもらえるような、バランスが取れた内容を考えることに苦労しました。そういった苦労があったからこそ、お酒を飲む人も飲まない人も高い満足感を得られるツアーになったのだと思います。一方、ツアーの時間だけでは、伝えたいこと全てを「完璧」に伝えるには至らなかったことが今後の課題です。短時間で伝えることの難しさという部分は今回のツアーの大きな反省点であるとともに、私たち自身が身をもって体感し成長することができた点でもあります。そういった反省をこれからの活動で生かしていきたいと思っています。



編集後記

この1年の活動を振り返って一番苦労したのは、チームの意思疎通を取ることです。授業で話し合ったことは毎回 Google ドライブを使って共有していましたが、しかしなかなか内容の周知徹底や意思を統一することが難しく、ギリギリになって動き出すことが多くありました。また一部の人の大きな負担がかかってしまうということもよくありました。最後までこの傾向を解消できなかったのは、大きな反省点であると感じています。以上の経験から、チームの大切さやまとめることの難しさを経験することが出来たと感じています。学生生活においてとても貴重な経験をすることができました。

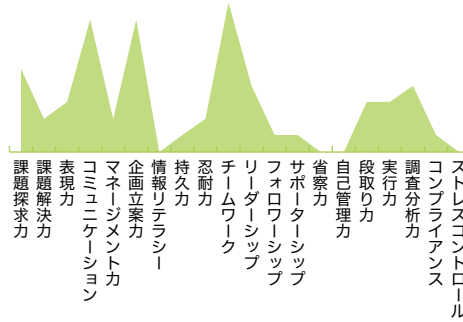
プロジェクトメンバー

岩井 美樹(神4) 江本 樹希(文3) 三谷 樹(文3) 佐本 陽香(文3) 金 熙奎(文3) 毛利 知寛(文3)
清水 亮介(経済2) 森本 悠太(商4) 野田 恵子(商3) 工藤 ころこ(商3) 松岡 映見(商2)
水谷 繭子(政策3) 石塚 日奈子(政策2) 西岡 正人(グローバル地域文化4) 沼田 奈緒(グローバル地域文化2)

プロジェクト活動 アンケート集計結果

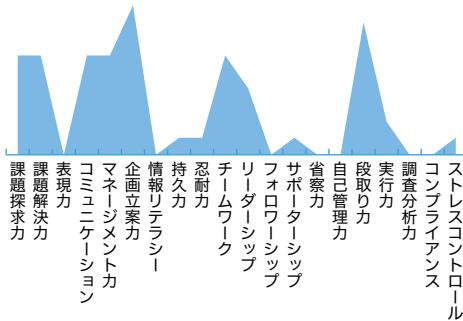
授業開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

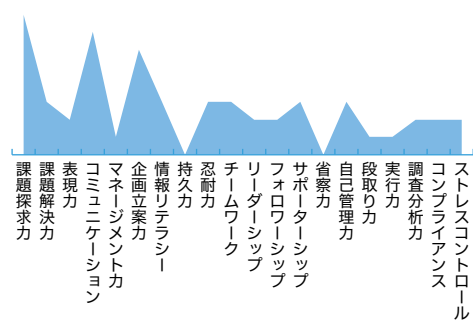


春学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

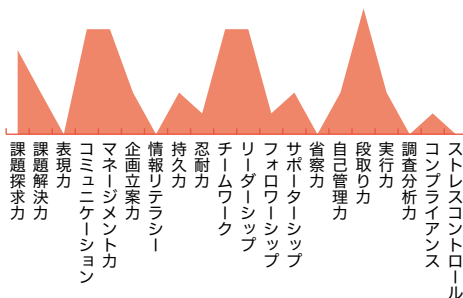


Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい



授業終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

